

表情の奏 — 芹川オムニバスタウン —

本提案では、まちに様々な場면을創出することで、多様性をもつ市街地形成を目指す。これを、「**まちの表情を奏でる**」として、観光・生活・防災・コミュニティの4つの観点から、より魅力的な表情の創出に取り組む。



□ 観光の表情

彦根城周辺で完結している観光動線を地区内まで引き込むため、地区内に歩行者専用の芹橋大路を整備し、観光客を誘導する。さらに、現存する足軽屋敷などの観光資源の有効活用や、憩いを提供する施設や空間の整備によって、観光客にとって魅力ある地区とする。

□ 生活の表情

フリンジ駐車場や部分的な交通規制の導入により、地区内の自動車交通を最小限に抑える。これにより車と歩行者の最適なバランスを提示し、歴史ある街区の保存を行う。また、芹川を活かした親水公園やポケットパークの整備により、より住みよい住環境を創出する。

□ 防災の表情

芹橋大路の拡幅により緊急車両の進入が可能になり、さらにポケットパークに設置する防火水槽によって災害時にも迅速な初期対応が可能となる。また、地区内の外壁には景観を損なうことなく耐火性・耐久性と延焼防止機能を持たせ、避難道を確保する。

□ コミュニティの表情

周辺住民も含めた地域のコアとなる公共施設を設置し、住民と観光客の交流を誘発する。生み出された交流は地域主体のイベント等に結実する。また、育児や生涯学習の支援を行う施設を設けることで、多様な世代の居住をサポートする。

これらの取り組みにより生まれた豊かな人の営みがまちの表情となり
 交わりながら音楽のように奏でられていく

